

## 22: ドナーの安全性(骨髄・末梢血)

### 1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 矢部 普正	東海大学医学部付属病院	小児科・細胞移植再生医療科
飯田 美奈子	愛知医科大学	造血細胞移植振興寄附講座
磯山 恵一	昭和大学藤が丘病院	小児科
一戸 辰夫	広島大学病院	血液内科
尾関 和貴	愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院	血液・腫瘍内科
小原 明	東邦大学医療センター大森病院	小児科学講座
金 成元	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
小寺 良尚	愛知医科大学	造血細胞移植振興寄附講座
澤 正史	安城更生病院	血液・腫瘍内科
塩原 正明	松本歯科大学病院	小児科
角南 一貴	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター	血液内科
田地 浩史	愛知県がんセンター中央病院	血液・細胞療法部
塚田 信弘	日本赤十字社医療センター	血液内科
政氏 伸夫	北海道大学大学院 保健科学研究院	病態解析学分野
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院	がんセンター
三田村 真	サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社	
薬師神 公和	神戸大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
安井 昌博	大阪府立母子保健総合医療センター	血液・腫瘍科
矢部 みはる	東海大学医学部付属病院	小児科・細胞移植再生医療科
山下 卓也	聖路加国際病院	血液内科
前田 猛	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	血液内科
飯田 浩充	独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター	細胞療法科
小林 直樹	札幌北榆病院	内科
酒井 紫緒	千葉大学医学部附属病院	輸血・細胞療法部
小林 寿美子	独立行政法人 東京都健康長寿医療センター	血液内科／輸血・細胞療法科
平川 経晃	日本医科大学付属病院	血液内科

### 2. 承認研究の進捗状況(2016年1月-12月 ※JSHCT2017を含む)

22-1	「Safety and risk of allogeneic peripheral blood stem cell donation: results of nation-wide consecutively pre-registered 3,264 family donor survey in comparison with bone marrow donation in Japan」 PI: 小寺良尚
学会発表: 済(「IV-4.血縁ドナー登録データ利用業績」参照)	
論文業績: 済(「IV-4.血縁ドナー登録データ利用業績」参照)	
22-2	「同種造血細胞ドネーションの更なる促進のために」 PI: 小寺良尚

学会発表: 済(「IV-4.血縁ドナー登録データ利用業績」参照)	
論文業績:	
22-3	「血縁造血幹細胞ドナーの声」 PI: 小寺良尚
学会発表: 済(「IV-4.血縁ドナー登録データ利用業績」参照)	
論文業績: 済(「IV-4.血縁ドナー登録データ利用業績」参照)	
22-5	「小児骨髄移植ドナーの安全性」 PI: 矢部みはる
学会発表: 済(「IV-4.血縁ドナー登録データ利用業績」参照)	
論文業績:	
22-6	「小児血縁末梢血ドナーにおける幹細胞採取量に関する検討」 PI: 塩原正明
学会発表: 済(「IV-4.血縁ドナー登録データ利用業績」参照)	
論文業績:	
22-7	「同種末梢血幹細胞ドナーフォローアップ調査(2000年4月1日～2005年3月31日)に基づく、正常人ドナーからのPBSC採取に関する研究」 PI: 政氏伸夫
学会発表:	
論文業績:	
22-8	「Feasibility of the use of cryopreserved allogeneic peripheral blood stem cells for the transplantation among family members.」 PI: 小寺良尚
学会発表: 済(「IV-4.血縁ドナー登録データ利用業績」参照)	
論文業績:	

### 3. 会議開催記録 (2016年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2016/01/10	国立がんセンター 特別会議室	発表済みプロジェクトの確認、進行中プロジェクトの進捗状況、新規プロジェクトの提案、他

### 4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2016年12月末時点まで) ( 212 )回

### 5. WGの今後の活動方針・抱負など

既に報告されたテーマのうち、22-6、22-7、22-8については論文化を進める。22-5については解析時に小児ドナーの有害事象はほとんど見られなかったものの、その後非登録例で問題となる有害事象が報告されたため、見直しを図る。今後、血縁ドナー登録がデータセンターに変更され、有害事象報告を含めて見直しが行われるため、今までのドナー登録システムの総括を含めて有害事象のまとめや登録システムの課題を明らかにしたい。